

令和5年度 社会福祉法人 遠州中央福社会事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日)

(基本理念)

人間にとって基本的な生活の場は、家庭や地域である。

住み慣れた家庭や地域で自立した生活が出来る多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供できるよう創意工夫することにより、生きがいを感じ自ら自立への思いを起し、地域社会で生活を営むことが出来るよう支援することを基本理念とし、地域貢献への考えを具体化する。

1. 法人本部

(1) 法人方針

地域における公益的な役割を再認識し、福祉施設の運営を通じて地域との関わりを構築し、地域福祉の拠点となるように事業活動を行います。ご利用者様と地域に信頼されるため、自ら考え行動することで、法人全体の「質」の向上を目標とします。

(2) 重点目標

- ① 福祉事業を安定的に継続していくために、各種法令・コンプライアンスを遵守し、適正な財務管理と事業所運営を行います。ご利用者様人数の管理とご利用者様確保のための活動を徹底することにより安定的な収益の確保に取組みます。
- ② 働き方改革を推進し、魅力ある職場と働きやすい環境作りに努めます。職員との面談を計画的に実施し、職員が抱えている不安や不満の解消に努めます。また、面談や研修を通じて人材育成を行い、職員の意識改革と後継者育成に努めます。
- ③ ご利用者様とご家族様が満足いただける充実した福祉・介護サービスが提供できる体制作りを行います。次期介護保険制度改正に向けLIFE（24時間シートや生活歴・生活習慣シート）を活用し、ご利用者様に合った介護サービスを提供します。ご利用者様の自立支援と重度化防止を図り、基本的な生活機能の維持・回復に努めます。
- ④ 地域福祉の拠点となれるよう、感染症対策を徹底しながら活動を継続し、情報発信と地域交流を行います。
- ⑤ 感染症や自然災害の対策について、BCP（事業継続計画）の作成・運用・修正を通じて非常事態を想定し、利用者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制作りを行います。

(3) 事業報告

令和5年度は、適正な財務管理と安定した事業所運営を継続するため、所属長会議では前年に続き事業所ごとの利用者実績、収益管理に取り組みました。

令和5年度もコロナによる影響は大きなものがあり、令和5年7月までは利用者確保に苦慮しました。豊田・袋井デイサービスでは定員の変更により利用者の確保と収益増加につながり、豊田デイサービスでは前年比986万円の増、袋井デイサービスでは前年比260万円の増となりました。

収益の6割以上を占める特養では満床確保に向け相談員がショート、デイ、居宅と連携し、相談員が他事業所居宅へ定期的に訪問して利用者確保に努めました。

法人全体では、令和4年度はコロナ等の補助金が2,400万円あったことから、サービス活動収益が前年比1,477万円の減となりました。

一方、サービス活動費用では人件費はほぼ前値並みとなり、水道光熱費は前年比1,170万円減で、令和5年度も決算は黒字で終了することができました。

また、豊田ゆうあいの里では老朽化した空調設備の更新を3,900万円の補助金を活用しながら19,800万円かけて実施し、修繕費の減少につながりました。

職員の働きやすい職場と風通しの良い職場環境をつくるため、特養とショートの主任・リーダー職員や60歳以上の職員との面談を実施しました。職員からは現場の様子を聞き取り、不安に思っていることや課題を確認できました。今後も面談を継続し職員の意見に耳を傾け、働きやすい職場作りを進めていきます。

充実した福祉サービスが提供できる体制作りを行うため、外部講師研修や動画視聴研修、業務に関する資格取得やスキルアップを支援する職員研修を計画し実施しました。

また、職員の勤務状況・健康状態を把握し、健康の保持、疾病の予防を促すため有給休暇の計画的取得を推進し、メンタルヘルス対策と業務の効率化に努めました。

職員の採用については、ハローワークや学校の担当者との面談機会を増やし、情報共有することで信頼関係の構築に努めました。

また、将来の若い職員採用を目指し、中学生や高校生の職場体験の受け入れを次年度も継続し、若い職員の確保にも力をいれていきます。

令和5年5月から新型コロナが感染分類5類に変更されました。対応の緩和が進んでいる現在ではありますが、疾病としての病状や感染力は依然変わらない状況です。引き続き、マスクの着用をはじめ感染対策の適切な実施に努めました。

2. 特別養護老人ホーム豊田ゆうあいの里

(1) 行動計画

令和 5 年度の収益確保を目指していく為に、退所から入所までの日数を 10 日以下とし新規の方を増やす為に居宅訪問し、申し込みされている方の状況を確認し入居者確保に努めます。ご利用者様確保の為、苦情・事故のないようにご利用者様に寄り添い満足して頂ける様に職員同士情報を共有し変化を見落とすことなくケアの統一を図ります。

又、年間通しての楽しみとしてユニット毎行う行事の他、個別ケアとして個々の楽しみや生きがいを見つけ生活の質を向上しご利用者様に満足して頂けるようにしていきます。

職員には、不適切ケア・接遇マナーを徹底させ職員同士注意し合える環境を構築し、不安や不満がある職員には面談を行い、離職率 0 を目指します。

年間の研修計画を基に積極的に参加させ自身の向上と勉強会を実施し職員同士情報共有しサービスの向上を図ります。

(2) 地域交流計画

地元自治会と連携・相互性をもち、防災訓練に参加し感染症や・自然災害時にお互い助けあえる環境を整えます。

(3) 事業（入居）実績 定員 80 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期合計	
計画	78	77	78	78	77	78	466	
実績	70.00	71.40	74.70	77.20	79.06	80.10	452.46	(単位:名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下期合計	年間合計
計画	78	78	78	77	78	78	467	933
実績	78.90	78.20	76.20	76.20	78.92	77.03	465.45	917.91

月間平均利用計画 77.75 人 平均月間人数 76.49 人 入居率 96.51%

計画対比 98.4% 前年対比 100.2% 平均介護度 3.7

ショートステイからの特養入居者 14 人

(4) 事業報告

昨年度のクラスター後6月末まで入居者数が減少してしまい計画に対し、大きな影響が出てしまいました。

利用者様に日々充実した生活を送って頂くため、ユニット毎の外出行事や四季折々の施設行事を実施しました。ここ数年コロナ禍で集団での行事や外出の機会も少なかった為、利用者様からは大変喜ばれ満足度の向上に繋ぐ事ができました。

今年度も例年通り介護実習の生徒を受け入れました。そのうち3名が就職に繋がりそれに合わせ新人教育プロジェクトを立ち上げました。初めての試みなので手探りの状況でしたが、特養主任と指導担当職員を中心に施設全体で基礎と基本を教育し即戦力となれるよう指導しました。指導担当職員は1か月間通常業務を外れ指導専任とし、教育体制を整えました。現在も継続中です。

不適切ケア、接遇マナーではユニットに入るときの挨拶や居室等ノックを必ず行う事を徹底し現在では全職員が意識せずとも当たり前に行えるようになりました。

研修ではそれぞれが興味のある分野に参加し知識・技術の習得に繋げました。勉強会の開催など一部実施できなかった部分もありますが、習得した内容を用いてケアの向上に努めました。

地域交流では近くの幼稚園児童とのふれあい慰問を受け入れ、一緒にゲームや歌を歌うなど楽しい時間を過ごしました。保育園へ出向きサンタ役でクリスマス会の手伝いをする活動も行いました。

3. 豊田ゆうあいの里短期入所介護事業

(1) 行動計画

特養入所に繋がるロング利用者を4名受け入れ出来るよう、多職種、袋井ショート共連携し対応していきます。平日のご利用人数、月のご利用人数と増やす事が出来るよう定期的な居宅訪問を行い、信頼関係を構築していきます。

ご利用者様に満足し楽しんで頂けるよう定期的なユニット行事の継続、日々の生活の中でも笑顔での対応を心がけ、コミュニケーションを多くとるようにしていきます。

ショート職員だけでなく、他部署の協力も得ながら取り組んでいきます。

夜勤業務が定時で終われない状況が多いので、ユニット職員の意見も聞きながら業務の改善に取り組んでいきます。

(2) 事業（入居）実績 定員 20名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	16.4	16.4	16.4	16.4	16.4	16.4	98.4	
実績	16.20	15.70	13.70	14.83	15.77	17.30	93.5	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	16.4	16.4	16.4	16.4	16.4	16.4	98.4	196.8
実績	18.00	16.43	15.32	13.51	13.17	11.50	87.93	181.43

月間平均利用計画 16.4人 平均月間人数 15.1人 利用率 75.6%

計画対比 92.2% 前年対比 100.2% 平均介護度 3.0

(3) 事業報告

特養や袋井とも連携し入所待ちの方の受け入れ、特養入所とスムーズに行うことができました。利用計画に届かない月も多くありましたが、年間通して新規依頼も多く頂き利用人数を増やすことができ、実績を上げることができました。

職員が不足する中でとても大変でしたが、リーダーを中心に他職種からの協力も得ながら業務を行うことができました。

ユニット行事は定期的には中々行うことができませんでしたが、日々の生活の中での利用者様との関わりを意識して、取り組むことを探したり、コミュニケーションを多くとることができました。

4. 豊田ゆうあいの里通所介護事業

(1) 行動計画

一昨年より目標として掲げている個別ケアの充実を図る為にカンファレンス開催、個別ケア内容の検討、月一週間の趣味週間の実施を目指していきます。

令和6年度の改正に向けて情報を収集して対応検討、一年をかけてLIFEの入力を行っていき、職員全員が入力方法の取得が出来るように環境を整えていきます。

コストカットの為に一層の節電、節水等経費削減を行い、又ペーパーレスを目指してICT化を進めます。

感染予防を徹底、通所内容をわかりやすく広報活動を行い、安定した利用者数を確保していきます。

(2) 事業（利用）実績 定員 35名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	28	28	28	28	28	28	168	
実績	29	29.6	31.3	31.3	30.2	31.1	182.5	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	28	28	28	28	28	28	168	336
実績	30.2	29.9	29.8	29.3	28.8	28.7	176.7	359.2

月間平均利用計画 735人 平均月間人数 29.93人 利用率 85.5%

計画対比 106.9% 前年対比 109.9% 平均介護度 1.8

(3) 事業報告

4月より定員を30名から35名に変更して、利用者受け入れを行って来た為利用人数は昨年度までに比べ増加しています。感染症等が拡大する事はありませんでしたが、感染した方や御家族の感染等で利用人数に影響が見られました。今後も感染予防に努めていき安全に安定した利用をして頂けるようにしていきます。

定期的なカンファレンスの開催は、実施出来ませんでしたが、担当利用者の方の活動内容のアセスメントは、確実に実施出来、活動に活かしています。趣味活動は、毎月一週間実施出来、利用者皆さんが、ご自分で選択して意欲的に活動出来ています。今後も皆さんが満足して頂ける活動を目指していきます。

5. 豊田ゆうあいの里居宅介護支援事業磐田事業所

(1) 行動計画

地域と関わり、繋がりを持つために、感染予防を徹底して「つながり隊」、「なのはな会」の活動を継続していきます。地域住民、地域で活動する団体の方々と交流が増え、コミュニティーの拡充を通して地域貢献に努めていきます。

利用者確保、実績達成の為、地域包括支援センターとの繋がりを大切にして、信頼が得られる居宅を目指します。要介護者確保数だけでなく、要支援の依頼も大切に、総合的に目標を達成していきます。

福田居宅、袋井居宅ともケアマネジメント、防災、感染予防など連携した取り組みを行い、福社会として、また組織として今まで以上の協力体制を形成していきます。在宅でいつまでも暮らせるための支援、無理をしない介護を支援、在宅介護と施設介護の架け橋など、さまざまな生活への要望の実現や色々な介護の形を提案できるようにケースカンファレンス、情報共有、多職種連携を大切にしていきます。

法人内のデイ、ショート、入所とお互いの信頼関係が築けるよう勉強会等で連携を深め、ご利用者様確保を目指します。

(2) 事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	105	105	105	105	105	105	630	
実績	108	115	115	112	112	110	672	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	110	110	110	110	110	110	660	1290
実績	107	108	106	106	110	105	642	1314

月間平均利用計画 107.5人 平均月間人数 109.5人

計画対比 101.8% 前年対比 76.8%

(3) 事業報告

地域と関わり、繋がりを持つために、「つながり隊」、「なのはな会」の活動を実施できました。家族介護教室の開催など地域住民、地域で活動する団体の方々と交流が増え、コミュニティーの拡充ができました。

地域包括支援センターとの繋がりを大切にして、連携することができました。また要介護者だけでなく、要支援者の対応もできました。

福田居宅、袋井居宅ともケアマネジメント、防災、感染予防など連携した取り組みを行い、福社会として協力ができました。

在宅でいつまでも暮らせるための支援、無理をしない介護の支援、在宅介護と施設介護の架け橋など、さまざまな生活への要望の実現や色々な介護の形を提案できるようにケースカンファレンス、情報共有、多職種連携を行い、実務で活かしています。法人内のデイ、ショート、特養と共にお互いの利用者様を通して情報共有を行い、急変、困難事例の対応につなげることができました。

6. 豊田ゆうあいの里居宅介護支援事業福田事業所

(1) 行動計画

引き続き地域に開かれ、貢献できる事業所を目指していきます。福田包括支援センターや他事業所、地域ボランティアと共同し、認知症の介護者や地域の方が意見交換や介護の理解を深める場として、認知症カフェを年3回開催していきます。

地域包括支援センターと連携して、地域の介護支援専門員の資質向上に向けた勉強会（しらす会）を年4回継続して開催していきます。開催にあたっては、感染予防を徹底する為、リモートで行う等、工夫をします。

ケアマネ力向上・チーム力の強化を目的に、支援終了ケースの振り返りを行ない、事業所内で支援過程の共有や意見交換を行い、個人の相談力の強化を図り、次の支援に繋げていきます。研修は業務に支障が出ないように、選択を行い参加した人がカンファレンスで報告をします。

業務効率化、レベルアップの為「適切なケアマネジメント手法」をカンファレンスで学習し、アセスメント、計画書、モニタリングに反映出来るようにします。

法人内のデイ、ショート、入所とお互いの信頼関係が築けるよう勉強会等で連携を深め、利用者確保を目指します。

(2) 事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	120	120	120	120	120	120	720	
実績	118	119	119	143	139	141	779	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	120	120	120	120	120	120	720	1440
実績	138	144	146	144	144	143	859	1579

平均利用計画 120人 平均月間人数 131.5人

計画対比 109.6% 前年対比 82.9%

(3) 事業報告

実績については、R5.3月にケアマネ1名退職に伴い計画を下回りましたが、7月に新規にケアマネが入りケースを持参した為、実績が増加しました。

令和5年度も包括と共同で認知症カフェを3回開催し、感染予防に留意し対面で行い、当事者、御家族の交流の場となり、話せる場所があってよかった等の言葉を頂きました。

しらす会も予定通り、包括と地区の主任ケアマネが主体となり4回開催し勉強会、事例検討会、介護者交流会を行い、地区のケアマネのレベルアップを図ると共に交流を行い、地域に貢献ができたと思います。

ケアマネ力向上、チーム力強化については、新人ケアマネの入職もあった為、カンファレンスでケース報告や各種申請方法、サービス導入の流れなど、その都度必要なことを話し合い、聞きやすい環境を作り順調にチーム力が強化できたと思います。

業務効率化、レベルアップについては「適切なケアマネジメント手法」をカンファレンスで学習し研修も受け、アセスメント、プランニングに役立てていきます。

7. 福田ふれあい荘通所介護事業

(1) 行動計画

コロナ禍でも感染予防対策を行い、事業継続が出来ることをご利用者様に、安心、安全な場所の提供と興味関心シートから知り得た情報をもとに、ご利用者様が楽しみを持てる活動内容を考えていきます。

令和6年度のLIFE導入に向けて、職員全員が共通理解しPCに取り組んでいきたいです。職員の介護技術向上の為に、勉強会の開催やミーティングでの話し合いの強化に努めます。

(2) 事業（利用）実績 定員 35名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	33	33	32	32	33	33	196	
実績	31.25	30	27.6	28.28	27.7	28.7	173.53	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	33	33	32	32	32	32	194	390
実績	29.6	31	31.6	29.3	31	30.2	182.7	356.23

月間平均利用計画 32.5人 平均月間人数 29.6人 利用率 84.5%

計画対比 91.3% 前年対比 98% 平均介護度 1.7

(3) 事業報告

5月の終わりから体調を壊す利用者さんが増え入院や入所される方が多く利用者人数が減ってしまいました。個別レクリエーションの内容も増え（パズル、文字合わせ等）利用者さんが退屈しない様なサービスの提供を行いました。令和5年度は職員が講師となってフットケアの勉強会を行い、利用者さんにも足裏マッサージを行い喜んで頂きました。LIFEについては入力を進めています。

今後も福田ふれあい荘の良さを出し、地域密着、利用者様に寄り添った介護を進めます。

8. 福田ふれあい荘 介護予防・日常生活支援総合事業（通所型・サービスA）

（1）行動計画

居宅介護支援事業所に活動内容の報告やご利用者様の日常生活の様子などを密に連絡を取り合いながら新規ご利用者様確保を行います。感染対策に気を付けて外出の機会やご利用者様が楽しみを持てるレクリエーションや健康講座の開催を考えていきます。元気に楽しく前向きな姿勢で自宅でも過ごせるように場所の提供に努めます。

（2）事業（利用）実績 定員 20 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	15	15	15	15	15	15	90	
実績	12	11.75	11.5	11.75	13.2	12.5	72.7	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	15	15	15	15	15	15	90	180
実績	13.75	12.8	11.5	13	12.5	12.6	76.15	148.85

月間平均利用計画 15人 平均月間人数 12.4人 利用率 62%

計画対比 82.6% 前年対比 152%

（3）事業報告

令和5年度は新規5名、緩和からデイサービスに移行された方が2名ありました。5年度は感染対策に気をつけながら外出を行い、持ち帰り作品も多くあり利用者様と楽しく過ごすことができました。また職員によるアコーディオン演奏もあり、今までにない取り組みを行うこともできました。

9. 特別養護老人ホーム袋井ゆうあいの里

(1) 行動計画

令和4年度と同様、同法人内での連携をとり、入所者確保を図ります。また、病院から紹介の方の受け入れを積極的に行い、退所から入所までの日数を8日以内とします。利用者様がその人らしい生活を送っていただけるように、利用者様の生活習慣や好みを把握し、24時間シートの作成とケアの見直しを行います。そして、委員会の中で24時間シートの目的や使用方法などを周知する場を設け、施設全体で同じケア・対応ができるようにします。

働きやすい職場や離職の少ない職場を構築するため、一般職員のユニット間職員体験の実施をします。また、新人職員や指導職員同士が、相談や情報交換できる場を設け、職員の不安軽減を図ります。育成計画を作成し、研修や内部での勉強会を通じて、勤務年数に応じたスキルを身につけ、個々のレベルアップやモチベーションアップを図ります。また、将来的にリーダーを任せられる人材を育てます。

令和4年度末に次年度のPDCAシート（現状把握・評価）をユニット内で話し合い、ユニットごとに目標を設定し、意識統一を図ります。

利用者様に笑顔あふれる1年を目指すため、施設やユニット行事のバリエーションを増やします。そして、日々の生活に体操を取り入れ、利用者様の脳の活性化や身体機能の維持を図ります。SNSやご家族様への手紙を利用して、多くの方に袋井ゆうあいの里の魅力を知っていただけるように取り組んでいきます。

(2) 地域交流計画

関係機関と連携して地元自治会での勉強会を企画し、福祉を通じて地域との交流を深めていきます。

地域防災への取り組みとして、地元消防団への場所の提供、地域の防災訓練への参加を今後も進めて行きます。

(3) 事業（入居）実績 定員 80名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	78.7	78.7	78.7	78.8	78.6	78.7	472.2	
実績	78.56	78.48	80.4	79.25	78.16	80.2	475.05	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	78.8	78.7	78.8	78.4	78.7	78.7	472.1	944.3
実績	79.67	78.76	77.74	78.12	75.13	77.06	466.48	941.53

月間平均利用計画 78.69人 平均月間人数 78.46人 入居率 98.07%

計画対比 99.7% 前年対比 98.9% 平均介護度 3.6 (3/31) 現在

ショートステイからの特養入居者 6人

(4) 事業報告

令和6年に入り、体調を崩し入院からの退所が続きました。また1月下旬から2月中旬には利用者様のコロナ感染があり、入所の受け入れを控えていた時期がありました。ですが、法人内の他サービスを利用されていた方や施設の口コミから申込みをしてくださった方、病院からの紹介などで新規入所者を確保でき、退所から入所までの期間を10日にすることができました。

コロナ感染では、以前の経験を基に多職種で相談や協力をしながら、感染拡大防止に努めました。また、感染対応中は、直接感染者対応している職員の負担が大きくなるような体制をつくりました。

働きやすい職場環境作りとして、リフレッシュ休暇（5日程度）の導入をしました。

また、職員間のトラブルやケアに対する考えの違いが生じた際は面談を行い、面談内容によっては、委員会やユニット会議で取り上げ、話し合いの場を設け解決するようにしました。また、各ユニットでPDCA目標を立て、業務改善やストレスを抱えない環境作りなどユニット会議で話し合い、職員間で共感・共有することができました。

人材確保・育成では、職員の定着を図る為、新入職員へのオリエンテーションで使用するマニュアルや研修日程の見直しを行い、スムーズに現場に溶け込める体制を作りました。3月に高校生と企業を結ぶ合同企業説明会へ参加し、遠州中央福祉会の魅力や介護の楽しさを伝え、就職先の選択肢として認知されるよう努めました。

新型コロナが5類となり、利用者様の外出や面会の緩和をしました。外出の幅も広がった事で利用者様から要望が多かった場所へのドライブを実施することができ、利用者様から久しぶりに外出が出来たと喜んで頂きました。施設内でのユニット行事も、各ユニットが工夫を凝らし毎月複数回行うことができ、利用者様の満足度向上が図れました。

条件付きではありますが、対面や居室での面会ができるよう緩和しました。ご家族様と直接、面会ができる機会が増えたことで、利用者様、ご家族様ともに喜んでいただいています。

行事の様子や生活風景をSNS（インスタ、ブログ）で発信しました。利用者様のご家族様に見ていただくことができ、面会時の話題のひとつとなっています。また、入所を考えている方に施設の様子を知っていただくための一つのツールとなっています。

地域交流として自治会の防災訓練に参加しました。地域の方を対象にした介護保険制度の勉強会や介護食の試食会を行いました。また、袋井市社会福祉協議会や地域包括、コミュニティセンターとの関係性が密となり、外部での活動に声をかけていただけるようになりました。

10. 袋井ゆうあいの里短期入所介護事業

(1) 行動計画

特養入所に繋がるように他職種との連携を密に行います。豊田ショート・袋井ショート双方の受け入れ枠を活用して、特養入所待ちでのロング利用者様の受け入れを2名確保し、安定したご利用者様の確保ができる様に連携を取って行きます。

個別ケアの確認、業務手順・業務分担の適時見直しを行います。利用期間内は一覧表（ホワイトボード）を活用して個別ケアに取り組みサービスの向上に努めます。特養と連携し職員の不安軽減を図り、育成計画での研修育や勉強会への参加に取り組む事により、職場環境の向上・職員育成を行って行きます。

(2) 事業（入居）実績 定員 10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	50.4	
実績	7.56	7.77	6.96	7.83	8.51	7.49	46.12	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	50.4	100.8
実績	8.51	8.26	8.51	6.90	8.60	8.80	49.58	95.70

月間平均利用計画 8.4人 平均月間人数 7.98人 入居率 79.8%

計画対比 94.9% 前年対比 92.9% 平均介護度 2.3

ショートステイからの特養入居者 6人

(3) 事業報告

特養相談員・居宅ケアマネとの連携を行い利用者の獲得を図りました。入所待ちでのロング利用受け入れのタイミングが合わず上期は計画に達しませんでした。下期になり、ご利用者様他事業所との調整・連携がスムーズに回り、安定して8割強の利用を確保できました。

職員間で情報を共有する事で、食事・排泄など個々の基本的ケアに加え、持参された食べ物の提供や、離床・着床のタイミング、市販薬の使用など個別ケアを職員が統一して行いました。決められたルールの中で、ご家族からの突発的な送迎時間・送迎方法の要望への対応や、利用中の体調不良時での柔軟かつ迅速に対応により、ご家族様・担当ケアマネより感謝の言葉を多く頂く事が出来ました。

業務改善・職場環境の向上・人材育成は、袋井特養と一体となり取り組みました。

1 1. 袋井ゆうあいの里居宅介護支援事業

(1) 行動計画

地域に信頼される事業所として、引き続き市主催や各包括主催の研修に積極的に参加していき、顔の見える関係性を維持する事で保険者、各事業所との情報の共有に努め連携を強化していきます。又、「袋井ゆうあいの里」が地域に定着し地域福祉の拠点となれるよう地域の活動へ参加していきます。

森町のご利用者確保に向け、森町介護予防・日常生活支援総合事業への関りを積極的に行っていき、昨年同様の収益を維持していきます。収益確保のため、他法人事業所の情報収集に努め、法人内事業所に提供をしていきます。

業務効率化のため定期的に検討を行い、問題点を見出し、その都度迅速に対応をしていきます。

(2) 事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	123	123	123	123	123	123	738	
実績	136	141	137	139	136	140	829	(単位:名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	123	124	124	124	124	124	743	1,481
実績	136	136	136	124	135	125	792	1,621

年間利用者延べ人数 1,621人 ケアマネ1人当たりの実績 36.02人/1ヶ月(3.75人)

計画利用者延べ人数 1,481人 計画対比 109.5% 前年対比 107.4%

(3) 事業報告

地域活動への参加として JA 森支店組合員セミナー、今井地区介護研修会、今井地区サロンでの介護保険制度についての講話をさせて頂き、地域住民の皆様と直接接し、袋井ゆうあいの里の存在及び、親しみが持てる施設であることを知ってもらえることができました。

また、市や包括主催の研修にも積極的に参加することで包括からの信頼や連携が図りやすい関係性が築くことが出来ている為新規相談に繋がり、利用実績は計画を達成することができました。

法人内各事業所間の連携の円滑化、各方面から得た情報の迅速共有、袋井拠点の連携強化が進みました。そのフィードバックによりサービスの早い対応がなされた事で、居宅支援として選択肢の充実が図れ、事業所としても介護サービスのレベルアップが図られました。

磐田市・森町の利用者確保は実数としてはまだ出てきていませんが、引き続き各市町の包括へ袋井ゆうあいの里の存在をアピールしていきます。

1 2. 袋井ふれあい荘通所介護事業

(1) 行動計画

月初の居宅介護支援事業所への実績配布やサービス担当者会議には、看護師、機能訓練指導員、生活相談員の多職種で参加し利用者様への迅速な対応ができる環境を作ります。

利用者枠拡大の整備を整え、ご利用者の確保を図ります。居宅訪問時、今年度よりさらに新規ご利用者を紹介して頂けるような信頼関係を構築し、ご利用者様登録数の確保につなげていきます。

新人職員の定着のため新人教育チェックリストを完成させます。また、現職員の意識改革を行ない新人が仕事を覚えやすい環境を作ります。

接遇チェックリストを活用し職員の利用者様に対する接遇のレベルアップを図ります。

個別ケアのマンネリ化を防ぐため、外部からの情報を積極的に取り入れレクリエーションに取り入れていきます。

(2) 事業（利用）実績 定員 40名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計	
計画	30	31	32	32	32	32	189	
実績	31.2	31.2	32.0	32.9	31.6	32.1	191.0	(単位名)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計	年間合計
計画	32	31	31	31	31	31	187	376
実績	31.4	30.5	30.0	30.5	30.8	32	185.2	376.2

月間平均利用計画 31.33人 平均月間人数 31.35人 入居率 78.13%

計画対比 100.1% 前年対比 104.4% 平均介護度 1.93

(3) 事業報告

利用者枠を35名より40名に拡大し利用者様獲得を図りました。月初の居宅支援事業所への実績配布は、必ず多職種で伺い専門職から報告をさせていただきました。その成果もあり新規の事業所2件からご利用所様を紹介していただくことができました。

新人教育チェックリストや新人研修計画を使用し新人が仕事を覚えやすい環境を作りました。新人職員は、それを活用しスムーズに仕事を覚えることができています。

職員の介護レベルアップを図る為、接遇チェックリストや不適切ケアの研修を定期的に行ない周知しました。

感染・防災・虐待の委員会には代表委員が参加し、BCP・マニュアルの更新に取り組みました。活動内容を会議で全職員に伝え周知しました。

袋井市としての正式な情報が出ない状況でしたが、事業対象者・要支援1の方の緩和型への移行の対応を行いました。

個別ケアでは、巾着・でんでん太鼓・フェルト傘等、作品を持ち帰れるクラブ活動を行い、ご家族様が目にされ好評価を頂いています。利用者様にはクラブ活動の準備段階から参加して頂き、責任感の中に「自分がいなければ」という形の楽しみを見出して頂いています。

1 3. 森町さわふれクラブ 介護予防・日常生活支援総合事業（通所型・サービス A）

（1）行動計画

レクリエーションだけでなく、機能維持の体操や介護予防講座、警察による交通安全や振り込め詐欺への啓蒙活動・講話内容を広報誌・ブログにて情報発信し、さわふれクラブ・きらきらのご利用者様確保、周知を図る PR を継続して、現状の活動を維持していきます。

お達者サロン（きらきら）では、さわふれクラブへの利用移行を踏まえ、受け入れを行って行きます。

（2）事業（利用）実績

①さわふれクラブ

定員 400 名/2 ヶ月

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期合計	
計画	180	120	180	120	120	180	900	
実績	168	105	147	106	100	137	763	(単位:名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下期合計	年間合計
計画	120	180	180	120	120	180	900	1800
実績	147	122	145	92	92	145	743	1506

②介護予防事業きらきら

定員 100 名/2 ヶ月

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上期合計	
計画	60	40	60	40	60	40	300	
実績	55	38	51	38	35	58	275	(単位:名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下期合計	年間合計
計画	40	60	60	40	40	60	300	600
実績	65	40	61	37	41	59	303	578

月間平均利用計画 150 人 50 人 平均月間人数 125.5 人 48.2 人 利用率 69.5%

計画対比 83.7% 96.3% 前年対比 90.0% 97.3%

（3）事業報告

①さわふれクラブ

利用対象条件（支援 2～事業対象）の適応条件期間が短い方が多くなり、デイサービスへ移行される方が増加しました。さわふれ利用者様は、きらきらからの移行が大半をしており新規利用が伸びない状況でした。

②介護予防事業きらきら

さわふれへの利用移行割合が増えており、森町からの委託条件の見直しをし令和 6 年度より料金の改定を行う事となりました。

今後さわふれへの移行後に、長期にわたり利用をして頂けるように、ドライブなどの外出レクリエーションに力を入れ利用者の満足度を上げる活動に取り組みました。

※料金改定

さわふれ

きらきら

昼食・おやつ代 650 円 → 750 円

委託料 300 円 → 400 円

作業材料費 310 円 → 480 円

利用料 1,200 円 → 1,500 円

(食事・作業材料費込み)